

プロジェクト進捗管理シート

方針1 「貢献」と「自立」の経済構造への転換

2 農山村産業クラスター形成プロジェクト

～観光と農林業を基礎とした農山村産業クラスターの形成～

総括マネージャー	観光部長
----------	------

目 標

山岳や高原、美しい景観、伝統・文化などの長野県の強みを活かし、世界水準の山岳高原観光地の形成や日常の暮らしを楽しむことができる観光地域づくり、6次産業化など付加価値の高い農林業の創出により、農山村に県民の暮らしを支える産業の集積をめざします。

総 合 分 析

「観光と農林業を基礎とした農山村産業クラスターの形成」をめざし、3つのアクションによりプロジェクトを推進しました。

達成目標4項目は全て「順調」に進捗しています。

観光においては、「山岳高原を活かした世界水準の滞在型観光地づくり構想」を策定し、今後、県内の他地域のモデルとなる可能性が見込まれる地域を「重点支援地域」として決定するなど、世界水準の山岳観光地域づくりに向けて事業を進めています。

また、農業の基盤強化と競争力向上を図るため、農業の担い手の確保や6次産業化の促進に重点的に取り組むとともに、林業においては、事業地の集約化、高性能林業機械の導入、木材搬出のための道路網整備など県産材を安定的に供給する仕組みづくりに取り組んだことにより、農山村に住む県民の暮らしを支える農林業の基盤構築が着実に進んでいると考えられます。

～プロジェクト推進に向けての課題と今後の方向性～

雄大で自然豊かな山岳やそれを背景に広がる農村景観など長野県の強みを活かした世界水準の滞在型観光地域づくりを推進するため、重点支援地域において世界水準に向けた観光客の受入環境の整備や利便性の向上に取り組み、その成果を県内他地域に波及させます。また、訪日ビザ緩和等により訪日旅行者が増加している東南アジアから県内へ観光客を誘致するため、タイを重点市場から最重点市場に格上げし、マレーシア、インドネシアを重点市場に追加するとともに、外国人旅行者にやさしい受入環境の整備や外国人目線に立った情報発信に取り組んでいきます。

さらには、収益性の高い農業を展開していくため、農業大学のカリキュラムを充実し、企業の農業経営者を育成するほか、農商工・金融・自治体等の多様な関係者で構成する信州6次産業化推進協議会による一貫したサポートなどにより、農業の6次産業化をさらに進めます。

産・学・官が連携して、木材加工施設、木質バイオマス発電施設、熱利用施設の整備に取り組むことにより、新たな林業の創生と再生可能エネルギーの利用を推進します。

達成目標の進捗状況

※進捗区分 ○順調:目安値以上 ○概ね順調:80%以上100%未満の進捗
○努力を要する:80%未満の進捗 ○実績値なし:今年度実績値が把握できない
・進捗割合=(実績値-基準値)/(目安値-基準値)

指標名	暦年	単位	基準値 (H24)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
観光消費額	目安値	億円		3,140	3,179	3,219	3,259	3,300
	実績値		3,103	3,149				
	進捗区分			順調				
	進捗状況の分析	観光消費額は2年連続で増加しており、長期的な減少トレンドから反転の兆しが見られます。「おもてなしの推進」「食の魅力発信」等の取組により、観光客の内、宿泊者の割合が微増していることが観光消費額増加の要因と考えられます。						
【目標設定理由】 H24年実績見込みから5%増加を目標に設定	今後の取組		引き続き、観光産業の強化や本県観光のブランド力の向上に取り組むとともに、県内外への情報発信を充実していきます。 また、「信州の山」の魅力の発信に加え、山岳高原を活かしたアクティビティによる新しい旅のスタイルの普及などに取り組みます。					
【関連アクション】 アクション1,2								

(様式第1号)

指標名	暦年	単位	基準値 (H22)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
農業農村総生産額	目安値	億円		2,968	2,996	3,015	3,033	3,050
	実績値		2,908	3,021				
	進捗区分			順調				
※農産物産出額と農業関連産出額の合計額	進捗状況の分析	果樹が凍霜害等の気象災害により減収となったものの、はくさいの夏場の計画生産の徹底などにより、野菜の価格が全般に堅調に推移したことや、6次産業化の取組が進んだこと、都市農村交流人口が増加したことなどにより、目安値を上回ることができました。						
【目標設定理由】 品目ごとの過去の増減率と今後の生産振興方針等をもとに設定	今後の取組	農業農村総生産額の増加を目指し、新規就農者の確保や高い技術と経営力を持つ企業の農業経営体の育成を進めるとともに、6次産業化の推進による農業の高付加価値化や輸出拡大に取り組みます。また、「おいしい信州ふーど(風土)プロジェクト」により、信州の食の魅力を県民全体で共有し、全国に発信していきます。						
【関連アクション】 アクション3								
指標名	暦年	単位	基準値 (H23)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
外国人宿泊者数	目安値	万人		32.8	37.1	41.4	45.7	50.0
	実績値		20.3	36.1				
	進捗区分			順調				
進捗状況の分析	立山黒部アルペンルートを観光する台湾やスノーリゾートを楽しむオーストラリアからの旅行者が増加していることから、県のプロモーションに加え、県内の観光事業者の熱意ある誘客活動などにより、目安値を上回りました。							
【目標設定理由】 倍増を基本に中国をはじめとする重点市場からの宿泊者の増加を見込み設定	今後の取組	東アジアや成長著しい東南アジア等の市場を主なターゲットに、国や隣接県、広域観光協議会等とも連携しながら、各市場の特性に応じた効果的な誘客活動を強化します。						
【関連アクション】 アクション1,2								
指標名	年度	単位	基準値 (H23)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
素材生産量	目安値	千m ³		330	350	600	605	610
	実績値		329	437				
	進捗区分			順調				
進捗状況の分析	事業地の集約化、高性能林業機械の導入、木材搬出の路網整備等に加え、住宅やバイオマス用として県産材が積極的に利用されたことに伴い、素材生産量は増加基調にある。							
【目標設定理由】 民有林の間伐面積等の伸び率や国有林伐採計画量から設定	今後の取組	産・学・官が連携して信州F・POWERプロジェクトにおいて整備する集中型の木材加工施設が平成27年4月、木質バイオマス発電施設が平成28年3月に稼働開始となることから、木材の需給調整を行うサプライチェーンセンターによる体制整備を進め、素材生産量の増加に取り組みます。						
【関連アクション】 アクション3								

**アクション
1**

(世界水準の山岳高原観光地づくり)

日本一の山岳環境や美しく豊かな農村景観を活かし、世界水準の山岳高原観光地づくりを進めます。

【アクションの進捗状況】

世界水準の山岳高原観光地づくりを推進するため、「山岳高原を活かした世界水準の滞在型観光地づくり構想」を策定し、今後県内他地域のモデルとなる3地域（木曽町、大町市・白馬村・小谷村、飯山市を始めとする信越9市町村）を「重点支援地域」として決定しました。

また、登山者の増加とともに遭難事故が多発しているため、岐阜県・富山県と連携して最新の安全登山マップを作成し、登山計画者・登山者に配布するなど、遭難防止対策に取り組みました。

主な成果

●山岳高原を活かした世界水準の滞在型観光地づくり

山岳や高原、美しい景観、伝統・文化など長野県の強みを活かし、世界水準の山岳高原観光地づくりを目指す

○今後県内他地域のモデルとなる重点支援3地域を選定

○NAGANOモビリティの構築

信州の美しい自然の中でロングトレイル、サイクリング等のアクティビティを楽しみながら県内を移動する、新しい旅行スタイル。2次交通の補完的役割を担うとともに経済効果にも結びつける。

重点支援3地域

飯山市を中心とする信越9市町村

テーマ:新幹線駅を核とした広域連携

大町市、白馬村、小谷村

テーマ:通過型から周遊滞在型へ

木曽町

テーマ:御嶽山と日本らしい文化の活用

●外国人宿泊者数が36.1万人となり過去最多

(25年実績:対前年比 44.8%増)

○円安を背景に

- ・黒部立山アルペンルートの台湾、香港からの旅行者の増加
- ・スキーシーズンのオーストラリアからの旅行者の増加

○ビザ要件の緩和によるタイ、マレーシア、インドネシアからの旅行者の増加

○官民一体となった東アジア、東南アジア向けのプロモーション活動の成果



旅行会社招へい事業

**アクション
2**

(県民参加型観光地域づくり)

来訪者が長野県の日常の暮らしを楽しむことができるよう、県民参加による観光地域づくりを進めます。

【アクションの進捗状況】

観光地域づくりを牽引する中核人材を育成するため、「信州・観光地域づくりマネジメント塾」を開催（H24～）し、多様化する観光客ニーズに対応できる地域一体型の体制整備に取り組みました。

また、相手の気持ちになって行う「おもてなし」を観光関係者だけではなく、地域や職場、家庭など県民総参加で行い、観光旅行者の満足度向上と地域の活性化を図る「ずく出し！知恵出し！おもてなしプロジェクト」を実施するなど、顧客満足度の向上に取り組みました。

主な成果

● ずく出し！知恵出し！おもてなしプロジェクト

相手の気持ちになって行う「おもてなし」を、観光関係者だけではなく、地域や職場、家庭など県民総参加で行い、観光旅行者の満足度向上と地域の活性化を図るプロジェクト！



©長野県アルクマ

○ ずく出し！知恵出し！おもてなし宣言の募集

【登録件数】平成26年3月31日現在 1,292件（人数：36,531人）

● 信州フィルムコミッションネットワークの発足

○ 会員相互の連携による映画やドラマの積極的なロケ誘致及びロケ支援

○ 県有施設利用手続きを簡素化し、ロケ誘致を促進

- ・フィルムコミッションネットワーク ⇒ 42団体が参加(26年3月末現在)
- ・ロケ地誘致照会対応件数 ⇒ 約865件(26年3月末現在 参加団体合計)
- ・加盟団体による主な支援実績 ⇒ 約414件(26年3月末現在)



飯山市 菜の花公園

アクション
3

(農林業の高付加価値化)

農山村の暮らしを支える農林業の基盤を強化するとともに、6次産業化の推進やエネルギー施策などとの複合的な施策推進により、農林業の高付加価値化を進めます。

【アクションの進捗状況】

農業の6次産業化については、農商工・金融・自治体等の多様な関係団体で構成する「6次産業化推進協議会」を県レベル及び地域レベル（10地域）で設立し、農林漁業者への支援を行う推進体制の整備を進めました。この結果、六次産業化法に基づく総合化事業計画の認定件数は78件（全国3位）に増加しました。

信州F-POWERプロジェクトで整備する施設に原木を安定供給するため、サプライチェーンセンターを構築するとともに、需給調整、産地調整などの役割について検討しました。

主な成果

● 農業の6次産業化の推進 ～信州6次産業化推進協議会の発足～

- ・「信州6次産業化推進協議会」の設立(H25.9)
- ・県内10地域に「地域6次産業化推進協議会」を設置
- ・総合化事業計画の認定件数は78件(全国3位)に増加

<総合化事業計画認定件数>

区分	H23	H24	H25	合計
認定数	22	37	19	78 (全国第3位)



商談会を開催し、6次産業化による商品の販路開拓を支援

● サプライチェーンセンター設置による原木の安定供給体制の構築

信州F・POWERプロジェクトの展開に資する取組として、素材（原木）生産業者と原木を製材、販売する加工業者の需給調整役となり、輸送（中間）コストや価格の固定化による計画的な素材生産の推進等を図るため、サプライチェーンセンターを設置しました。

〈構成員〉

素材（原木）の流通を担う、長野県木材協同組合連合会、長野県森林組合連合会、長野県納材協同組合、木曾官材市売協同組合の4団体

信州F・POWERプロジェクトイメージ図

